



100年続く 詩情の味

嘉川

金光酒造
金光明雄さん

伝統の味－清酒「山頭火」

1926年の創業以来、小郡をはじめ山口市にゆかりが深く酒好きで知られた俳人、種田山頭火の名を冠した清酒「山頭火」をはじめ、日本酒づくりを手掛け続けている。山頭火は全国新酒鑑評会で金賞に輝き、辛口ですっきりとした飲みやすい味で多くのファンの心をつかんでいる。



展示・試飲スペース

11～4月は酒造り、5月以降は瓶詰や出荷作業を行う。12月が最大の繁忙期。いずれも手作業で負担はあるが、美味しい酒を作るため早朝から社員と共に精を出す。伝統の味を支えるのは地域への感謝の思いだ。地産地消を心がけ、県産米「山田錦」だけを使った各種銘柄の純米大吟醸や、質の高い嘉川の酒米と水でつくる「オール嘉川」の清酒「嘉穂（かほ）の郷」などこだわりの逸品ばかり。



イベントで酒を振る舞う金光さん

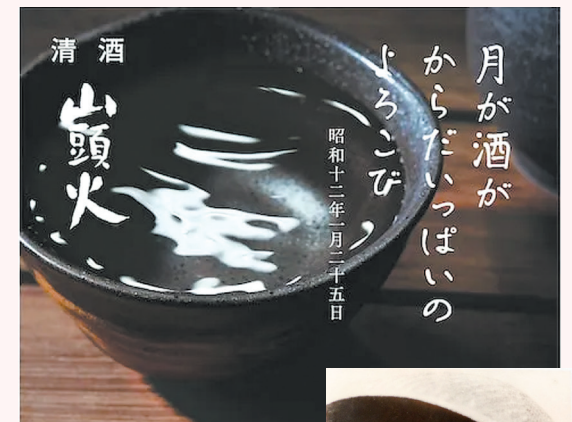
理想の酒を追求

5代目の明雄さんは宇部市出身で27歳の頃、結婚を機に金光酒造を継いだ。それまで酒作りをしたことがなく、一から覚えることばかりで苦労したという。それでも自分の酒を作りたい一心で続けてきた。理想の酒は甘すぎず、辛すぎず、一杯飲むともう一杯と思わず手を伸ばしたくなる酒。

月が酒がからだいつぱいのよろこび－山頭火への思い

代表銘柄「山頭火」は同社防府工場跡の地で、かつて山頭火が酒造業を行っていたことにちなむ。

金光さんは「山頭火は自由奔放に生きた面白い人だ。飲んだ酒の感想でも山頭火にかかれば句になってしまう」と評する。2022年には1年365日分の俳句を選び、朝日や花、雪景色など句に合った写真を背景に1年分の俳句ラベルを作成した。そのラベルを貼った酒を「山頭火日々の酒365句」と銘打って販売しており、誕生日や創業祝いの贈り物として好評を博している。



1月25日の句
「月が酒が
からだいつぱいの
よろこび」



種田山頭火



社屋前にある句碑

金光さん自身が山頭火の全句集や日記を基に各日付でこれぞと思う句を選んだ。「酒」が入った句を好み山頭火が1937年1月25日に小郡の其中庵で詠んだ「月が酒がからだいつぱいのよろこび」がお気に入り。この句の句碑を社屋前の駐車場に建てた。

地域への感謝を形に

15年以上前には気軽に酒に触れてもらおうと酒蔵を改装し、展示スペースと試飲コーナーを設けた。コロナ禍前には酒蔵開き、月見、冷酒を振る舞うビアならぬ「ヒヤガーデン」などのイベントを開催し、地域への感謝を伝えてきた。創業100年に向けこのイベントを復活させたいと意気込んでいる。

嘉川の魅力は「自然の豊かさと人の温かさだ」と言い、新たな挑戦として酒を振る舞うイベントや新商品の開発をしようと考えている。人たらしで知られた山頭火を思わせる柔らかな笑顔と地域への愛に満ちた酒で訪れる人をもてなし続ける。



金光酒造外観

4～11月には酒造の見学ができ、試飲や販売も楽しめる(要予約)
申し込みは、下記まで。
〒山口市嘉川5031
☎ (083) 989-2020
✉ info@santouka.com